



## 海外生活 だより

ソウル事務所

# 似ているようで違う？ 韓国の結婚式

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所所長補佐  
一色 大輔 (愛媛県派遣)

日本と韓国は距離が近いこともあって、文化や生活面においてもさまざまな共通点が見られますが、一方で異なる点も多々あります。

先日、同僚の韓国人職員の結婚式に出席するという貴重な機会を得ましたので、日本と似ているようで違う、韓国の結婚式についてご紹介したいと思います。

### 結婚式への招待から出席まで

日本で結婚式に招待される場合、親しい関係にあるのが一般的だと思います。しかし韓国では、例えば仕事で少し関わっただけの、日本人の感覚では「知り合い」程度の方なども、広く招待します。また、招待に対して出席・欠席の返事をする必要がありません。そして、招待状を受け取った人だけでなく、その友人なども、たとえその人が新郎新婦と面識がなくても、出席することができます。とにかくたくさんの方に祝ってほしい、というのが韓国の結婚式の特徴でしょうか。

結婚式当日の服装は、韓国では日本よりカジュアルな格好で構わないようです。男性ならジャケットにスラックスでネクタイも不要、女性ならブラウスにスカートのような服装が一般的です。

ご祝儀は、日本が3～5万円であるのに対し、韓国は3～5万ウォンで、2015年1月のレート(1円≒9ウォン)で考えると、10分の1程度です。韓国の結婚式では引き出物などありませんので、このぐらいの金額が相場になっています。

また韓国では受付にご祝儀袋が用意されているので、それを使うことができます。ご祝儀袋も、写真(右上)のように白くシンプルなのが一般的です。服装や金額のこととも相まって、参席者の負担が少なく、参加しやすいようになっていると感じました。



受付の様子

受付では芳名帳に名前を書いて、ご祝儀を渡す、ここまでは日本と同じ流れなのですが、引き換えに食券を渡されるところが韓国独特です。

受付が済んで結婚式の開始を待つまでの間、招待客は新婦の控室に行ってお祝いの言葉を伝えたり、写真を撮ったりすることができます。式の直前に親族以外の方が控室に自由に入れるというのも、日本ではあまりないのではないのでしょうか。

### いよいよ結婚式

日本と同様に韓国でも「礼式場」<sup>イェシクチャン</sup>といわれる結婚式場で結婚式を挙げるのが一般的です。また、人口の約3割がキリスト教徒である韓国では、教会などで式を挙げる方も多いようです。最近では、若い世代の志向に合わせて、ホテルやレストランでの結婚式なども行われています。

今回参加した結婚式は礼式場において、以下のような流れで行われました。

- ①両家の母親によるキャンドル(華燭)の点火
- ②開会宣言
- ③新郎入場、新婦入場、新郎新婦の一礼

④誓いの言葉、結婚宣言、指輪の交換

⑤余興（お祝いの歌や言葉など）

⑥両家の両親・来場者へのお辞儀

⑦新郎新婦の退場

日本のキリスト教式結婚式とよく似た流れですが、賛美歌の斉唱や聖書の朗読など、宗教的な部分はないようです。



結婚の誓いを交わす新郎新婦

また、韓国では主礼という媒酌人ジュルのような方が开会宣言や結婚宣言を行ったり、祝辞を述べたりするのですが、今回のように、最近は主礼なしの結婚式をする人が増えているそうです。

韓国では披露宴はあまりしないので、新郎新婦の友人による余興が結婚式のなかで行われているのも日本と違うところです。

ちなみに今回、新婦入場は生演奏、生歌とともに行われたのですが、これは当日の朝、式場側から提案されたそうです。韓国ではこのような突然のプラン変更が多く、式の準備が大変なのは日本も韓国も同じですが、韓国特有の苦勞もあります。

## 伝統婚礼儀式「幣帛」

結婚式が終わると、新郎新婦と親族は別室に移動し、「幣帛」という伝統的な婚礼儀式を行います。礼式場には、幣帛室という専用の部屋があります。

新郎新婦は伝統的な婚礼衣装に着替え、新郎の両親に挨拶します。次に新婦が持つ盃に新郎がお酒を注ぎ、新郎両親はそれを飲んだ後、お祝いの言葉を贈ります。



伝統婚礼儀式幣帛の様子

次に、新郎新婦が持つ白い布めがけて、新郎両親は棗と栗を投げます。棗は男の子を、栗は女の子を意味し、受けとめた数だけ子宝に恵まれる、といひます。

その後、親族に挨拶を行った後、新郎新婦も盃を交わします。そして新婦が口にくわえた棗を分け合って食べます。このとき、種が口に入った方が家庭内で主導権（お財布）を握るといわれます。

最後に新郎が新婦を背負って幣帛室を1周します。これには「一生面倒を見ます」という意味があるそうです。

なお、幣帛は、もともとは新郎新婦が新郎親族に挨拶する儀式なのですが、最近は新郎新婦両方の親族が参加することが増えているそうです。

一方、招待客は幣帛が行われている間、式場内にある食堂に移動して食事をします。食堂に入る際には、ご祝儀と引き換えに渡された食券が必要です。韓国でもホテルでの結婚式の場合、席が決まっています、コース料理が出されることが多いのですが、礼式場での結婚式の場合、席は自由で、食事はビュッフェスタイルが一般的です。

韓国の結婚式の食事にはクスといううどんに似た麺料理が定番です。白く長いクスは、新郎新婦の末永い幸せを願うものです。「いつクスを食べさせてくれるの?」と聞かれたら、「いつ結婚するの?」という意味になるそうです。

招待客が食事をしていると、幣帛を終えた新郎新婦が各テーブルを回って挨拶をしてくれます。

食事が終わったら帰るのは自由なので、各自帰っていきます。礼式場が忙しい時期は食堂の使用時間が厳しく制限されるので、食べ終わってなくても追い出されることもあるそうです。

## おわりに

今回は韓国の結婚式について、日本との違いを中心に紹介させていただきました。しかし、その違いのひとつひとつに、新郎新婦の幸せを願うという日本と変わらぬ気持ちがこもっているように思いました。

日本と韓国、さまざまな違いはありますが、その違いを拒むのではなく、違いの意味をよく知ったうえで、韓国の方と接していきたいと思ひます。